

令和 7 年 1 月 1 4 日

【件名】

【注意喚起】エチオピア国内におけるウイルス性出血熱疑い症例の発生

【ポイント】

- ・エチオピア保健省は、南エチオピア州ジンカ町にてウイルス性出血熱疑いの 8 例を確認。
- ・保健省、公衆衛生研究所、WHO は医療チームを派遣し検査及び確認に努めています。
- ・WHO アフリカは、エボラ出血熱、マールブルグ病、ラッサ熱、クリミア・コンゴ熱の可能性を考えています（<https://www.afro.who.int/news/ethiopia-suspected-viral-haemorrhagic-fever-outbreak>）。
- ・南エチオピア州（アルバミンチ等）への渡航は控えていただくことを推奨いたします。

【本文】

1 1 月 1 2 日付、当地保健省と公衆衛生研究所は、南エチオピア州ジンカ町において 8 例のウイルス性出血熱疑い患者が発生したことを発表しました。

現在のところ、国内全土での感染拡大には至っておりませんが、以下 3 の予防措置を徹底の上、十分注意するようにして下さい。なお、南エチオピア州（アルバミンチ等）への渡航は控えていただくことを推奨いたします。

2 保健省、公衆衛生研究所は現地に医療チームを派遣し病原体の特定に努めていますが、現在のところ感染を持たらしている具体的な病原体は不明です。

3 感染予防対策

以下のような感染予防対策を心がけ、感染が疑われる場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

- 症状のある人の飛沫・体液等との接触を避ける。
- ウイルスを保有する可能性のあるほ乳類（死体を含む。）との接触を避け、野生の狩猟肉（ブッシュミート）を食べたり扱ったりすることを控える。
- クリミア・コンゴ熱であった場合、ダニ咬傷により感染するので、ダニを保有する家畜等に近づかない。
- 石けんと水、またはアルコールベースの消毒剤を使用した手指衛生を行う。
- 不要な流行地の訪問を避け、なるべく人混みを避けるようにする。また、洞窟等に立ち入らない（吸血コウモリ咬傷による感染の可能性があるため）

（参考）

○厚生労働省検疫所

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708.html> (エボラ出血熱)

<https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/name51.html> (ラッサ熱)

<https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/name38.html> (クリミア・コンゴ出血熱)

<https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/name49.html> (マールブルグ病)